

本書は、植民地期の言語政策に関する先行研究の問題点をふまえて、日本人に対する朝鮮語奨励政策の実態解明に重点を置いて論じてきた。全体をつうじて明らかにしたのは、以下の三点である。

第一に、韓国併合を境に、朝鮮語教育の舞台が「内地」から植民地朝鮮へと移行したことである。併合前の朝鮮語教育は、主に「内地」の教育機関で行われた。そこでの朝鮮語奨励政策の目的は、比較的少数の優秀な人材を育成するという点にあった。東京外国語学校卒業生、外務省官費留学生、熊本県派遣朝鮮語留學生などが、韓国統監府や朝鮮総督府及所属官署の通訳官、通訳生となっているのは、そうした政策の成果と言える。...

第二に、植民地朝鮮での朝鮮語奨励政策が支配の末期まで継続したことである。従来の植民地期の言語政策に関する研究では、支配の時期がすすむにつれて、「日本語強制」に拍車がかかり朝鮮語の使用も制限されるようになったとされてきた。朝鮮人に対する言語政策がそのように進められていたことは確かであるが、支配末期の一九四三年に至っても日本語の普及率が二〇%程度であったという現実には、日本語を強制するだけでは支配が立ち行かなかったことを示している。...

第三に、朝鮮語奨励政策の質的、量的側面を詳しく分析することによって、朝鮮語奨励が一部の官吏に対する特殊なものであり、支配のために行われたものであるとする先行研究が示した結論を再検討したことである。...

●既刊図書のご案内

海野福寿 編・解説

外交史料 韓国併合 上・下

本史料集は、日本の韓国植民地化過程（一九〇四～一九〇年）に締結された日韓旧条約の日本側の政府関係史料を中心に四〇〇点余を収録。日韓外交関係の基本史料である。【内容】上 論点 / 日韓議定書 / 第一次日韓協約 / 韓国通信機関委託ニ関スル取極書 / 第二次日韓協約 下 第三次日韓協約 / 韓国司法及監獄事務委託ニ関スル覚書 / 韓国警察事務委託ニ関スル覚書 / 韓国併合ニ関スル条約 / 年表  
A5判・上製・函入・806頁・揃定価 本体4,000円十税 / 03年11月刊 ISBN4-8360-4561-0

海野福寿 編・解説

十五年戦争極秘資料集 補巻7

韓国併合始末 関係資料

本書は二つの「韓国併合」の資料からなる。資料1は「朝鮮総督報告 韓国併合始末」三三丁、同附録「韓国併合ト軍事上ノ関係」八丁（明治四三年二月）。資料2は「日韓併合始末」四四頁、同附録三〇丁、地図・表多数（明治四四年八月）。新資料の発掘によって、「韓国併合」が今まで「対等の立場で締結された」とする政治家の発言が、いかに史実とかけ離れたものであるかを、資料によって解き明かす。  
B5判・上製・函入・286頁・定価 本体9,500円十税 / 98年11月刊【復刻版】 ISBN4-8350-1037-X

●表示価格は、全て税別。

不二出版

〒112-0013  
東京都文京区向丘1-1-11  
TEL 03-3811-2443  
FAX 03-3811-2446  
振替 001-6011-9408

植民地朝鮮における朝鮮語奨励政策

——朝鮮語を学んだ日本人

植民地下の朝鮮で、日本人を対象としたさまざまな朝鮮語試験が行われていた！  
朝鮮総督府による、教師や警察官などを対象とした朝鮮語学習奨励政策の実態を、幅広い資料群の分析を通して考察する。



不二出版

山田寛人 著

A5判・上製・二七〇ページ  
定価 本体四、八〇〇円十税 ●二〇〇四年六月刊行

# 独創的な視点から植民地朝鮮における言語問題を実証

崔 吉城 (元広島大学教授)

植民地朝鮮における言語問題に関する従来の研究のほとんどは、朝鮮人に対する日本語教育を対象としていた。そこでは、「日本語強制」と「朝鮮語抹殺」という言説により、日本の支配の過酷さが指摘された。しかし、半ば常識として定着してきた、これらの言説の実態は、実のところ、十分に示されていたとは言えない。それに対して、本書はこれらの言説に反するような、支配者の側にある日本人による被支配者側の朝鮮語学習の実態を明らかにしようとしたものである。

この点に本書の独創的な視点が見出せると思う。植民地支配を単純な支配―被支配関係としてとらえるのではなく、実態に基づいて、現実の複雑な関係を分析しようと試みている点も高く評価できる。また、本書の実態記述は、主に一次資料を対象にして、幅広く資料収集をしており、実証的で客観性を重んじている。

山田氏は朝鮮語による口頭発表を行い、朝鮮語による論文も執筆し、大学における朝鮮語教育にも携わるなど、研究の遂行に十分な朝鮮語の能力を有しており、将来の研究者としての活躍が期待される。こうした学際的な研究書がより多くの方々に読まれることを願ってここに本書を強く推薦する。

(チエ・キルソン)

## ●本書「目次」より

### 序章

#### 第一章 朝鮮語教育略史

- 一 日清戦争以前
- 二 日清戦争期
- 三 日露戦争期
- 四 韓国併合後
- 五 韓国併合が朝鮮語教育におよぼした影響

#### 第二章 朝鮮語奨励試験

- 一 試験規程の変遷
- 二 試験問題
- 三 職種別合格者

#### 第三章 普通学校の日本人教員に対する朝鮮語奨励政策

- 一 朝鮮語教育の目的とその背景
- 二 朝鮮語教育の実態
- 三 朝鮮語試験制度
- 四 朝鮮語教育の転換

#### 第四章 警察官に対する朝鮮語奨励政策

- 一 朝鮮語奨励に関する制度の変遷

- 二 朝鮮語奨励政策の背景

- 三 朝鮮語奨励政策の成果とその問題点

#### 第五章 金融組合理事に対する朝鮮語奨励政策

- 一 理事の性格

- 二 講習会

- 三 朝鮮語試験規程

- 四 朝鮮語奨励政策による成果

#### 第六章 日本人による朝鮮語学習の経路と動機

- 一 資料解説

- 二 朝鮮語奨励試験合格者の朝鮮語学習の経路と動機

### 結 章

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください

●発行所

## 不二出版

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12  
TEL 03-3812-4433  
FAX 03-3812-4464

### ●著者紹介

**山田寛人** (やまだ かんと)  
二〇〇一年三月 広島大学大学院社会科学研究所国際社会論専攻  
博士課程後期修了 博士(学術)  
現在 大学非常勤講師(広島大学など)

注文カード

帖合・貴店名

冊数 冊

発行所

不二出版

著者名

山田寛人

様

植民地朝鮮における朝鮮語奨励政策  
―朝鮮語を学んだ日本人―

ISBN4-8350-4155-0 C3021 ¥4800E

定価=本体 4,800円+税

年 月 日注文

住所氏名